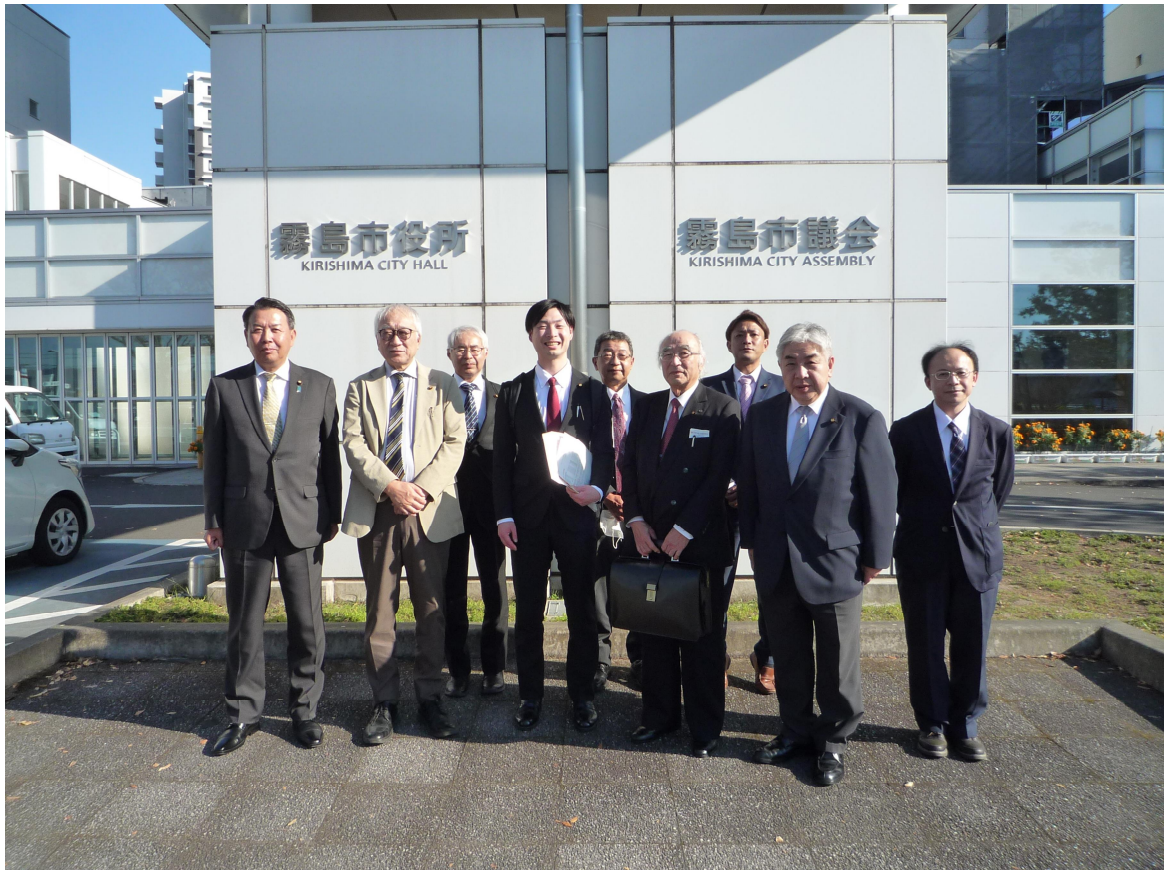


令和5年

経済建設常任委員会行政視察報告書



視察日程：令和5年10月31日（火）～11月2日（木）

視察先：鹿児島県霧島市 「道路アダプト制度について」
鹿児島県南九州市 「観光振興について（歴史遺産を活用した観光振興と歴史と景観をいかしたまちづくり）」
鹿児島県南九州市 「知覧特攻平和会館について」
鹿児島県鹿児島市 「鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業について」
「歩いて楽しめるまちづくり推進事業について」
「鹿児島中央駅東口駅前広場、西口駅前広場について」

派遣委員：田村勇（委員長）、藤田哲也（副委員長）、寄谷猛男、荻野仁史
三上裕久、山口清悦、安楽良幸、荒木文一

随 行：高橋誠（議会事務局）

I 視察の目的

令和5年10月31日（火）から11月2日（木）までの3日間にわたり、経済建設常任委員会の行政視察を実施した。

本視察の狙いは大きく3点あり、その1点目は、道路空間を利活用する民間団体と道路管理者が連携して道路管理の一層の充実を図ることを目的とした「道路アダプト制度」を学ぶことであり、鹿児島県霧島市を視察した。

2点目は、既存の観光地及び観光施設をフル活用しながら、新たな観光地づくりや稼ぐ観光に向けた取組を行っている「観光振興について」を学ぶことであり、鹿児島県南九州市を視察した。

3点目は、議員として、そして人としての資質を向上させるため、鹿児島県南九州市の知覧特攻平和会館を視察した。

また、宿泊した鹿児島県鹿児島市では、議会（委員会）関係が入っていたため、担当者の説明等を聞くことはできなかったが、委員各自で現地視察を行い、「鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業について」、「歩いて楽しめるまちづくり推進事業について」、「鹿児島中央駅東口駅前広場、西口駅前広場について」を学んだ。



鹿児島県霧島市



鹿児島県南九州市



鹿児島県南九州市「知覧特攻平和会館」

Ⅱ 視察状況

1 鹿児島県霧島市「道路アダプト制度について」

(1) 視察日時及び対応者

ア 視察日時 令和5年10月31日（火） 13時30分～15時00分

イ 対応者 霧島市建設部建設施設管理課

安田課長、上脇田グループ長、福永氏

霧島市議会事務局議事調査課

西課長、有村グループ長



霧島市職員の皆様



霧島市の紹介DVDを視聴する委員

(2) 制度の概要等

ア 道路の環境保全及びその機能の向上を図るための美化活動を行う市民活動団体等と市が共に協力し支えあう共生・協働による快適で美しいまちづくりを推進することを目的としている。

イ 対象となる団体は、企業の法人又は地区自治公民館、自治会、老人クラブ、PTAその他活動の継続性が保たれる市民活動団体であり、令和5年度活動団体登録実績は84団体となっている。

ウ 対象となる道路は、国道又は県道については市と協議がなされた道路、市道は市が別に定めた道路（主要幹線道路）であり、令和5年度実績では92路線、延長83,153mとなっている。

エ 美化活動の内容は、1. 道路の草払い（対象全延長、年2回以上）、2. 道路の清掃（ゴミ拾い等）、3. 道路の破損等の情報提供としており、1及び2は必

ず実施することとしている。なお、延長400m以上あることを条件としている。

オ 活動の実績により、支援金を受けることができ、支援金は、400m以上750m未満は30,000円、750m以上1,500m未満は40,000円、1,500m以上は50,000円で、1登録団体等につき年間5万円を限度としている。令和5年度実績は、84団体に3,230,000円の支援金を交付している。



集中して説明を聞く委員



田村委員長と藤田副委員長

(3) 制度導入による後の効果と課題

ア 効果としては、道路の草払いにかかる委託料の軽減が図られている。また、希望団体には、対象の路線内に活動団体の名前を明記したサインボードを掲示しており、参加者のやりがいや一般市民の方に美化活動の啓発を促している。

イ 課題としては、登録されている団体の方々の高齢化により、参加人数の減少に伴う作業量の増加や登録を取りやめる団体が増えてきている。



荒木委員と荻野委員と安楽委員



寄谷委員と山口委員と三上委員

(4) 各委員の所感

- 市民活動団体と市が協働による道路に愛情を持ってまちづくりをするという「道路アダプト制度」は、地域の自主性が必要で高齢化による休止や解散という課題があるが、滝川市においても町内会や団体等で実施可能とも思える。
- この制度により、道路を利用する人々や地域住民の意識が高まり、より清潔で快適な道路環境の維持に期待がされる。また、地域コミュニティの結束を強化し、企業の社会貢献活動としての側面もある。このような公共と民間の協働は、限られた行政資源の効率的な活用としても非常に有効な取り組みだと感じた。
- 町内会に限らず広く協力を呼びかける工夫があり参考になった。高齢化で参加者の減少が問題となっているが、事業所の参加もあるので、そこで働く人から新たな展望を切り開けないかを考えるヒントを得ることができた。
- 市民の皆様と行政が一体となり何とかして景観を守ろうとする努力が見受けられた。素晴らしい取り組みだと感じた。
- 十数年前からの取り組みを継続実施されてきたことに感心させられた。これは、市民との協働による環境保全活動であるが、町内会を運営する役員の担い手不足の課題を抱える本市についても大変参考となる制度である。
- 滝川市では公園管理を地域町内会に有料で委託しているが、霧島市の課題であげられていたように高齢化とともに請負が困難になってきている。滝川市で同様の制度設計は難しいと感じた。
- 河川環境保全から道路の維持管理に発展した事業であり、特色として自治会、町内会、老人クラブ、PTAなどの市民活動団体だけではなく、企業等の法人まで登録できる制度として運営しているのは参考になった。
- 登録した団体(1団体3名から20名程度)が美化活動区間を設定(最小400m、最大1,500m以上)して、草払いやゴミ拾いを1年間に2回以上それぞれの作業を実施し、その対価として活動区間距離に応じて市から支援金(3万円から5万円)が交付されるとともに、活動区間には担当団体名が表示されるなど、美化活動の意欲高揚にも着意しているものと感じた。



お礼の挨拶を行う藤田副委員長

- 滝川市においても本制度と同様の制度を平成19年8月から「たきかわまちびか協働隊」として立ち上げており、現在6団体43名が活動しているが、市民に対する周知(広報)が不十分であり、その認知度は低く制度内容を含め再検討が必要であるものと思料する。
- 参加アダプト団体に「法人」登録が多く、継続性が期待でき、決して大きな金額とは言えないが、制度施行前の委託（シルバー人材などの活用）より費用が減少していることから、まちづくりのあり方として、共生・協働の理念の実践は今後の市政運営にとって理想的であると思った。



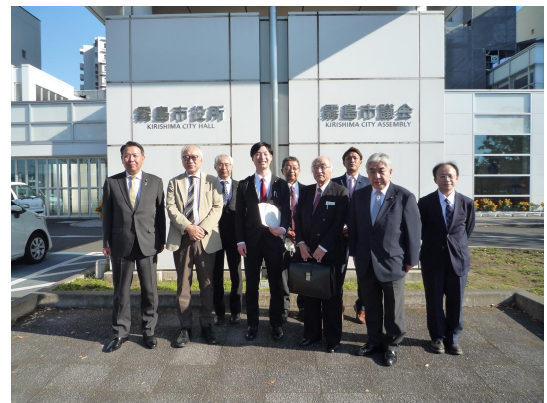
霧島市議会議場(1)



霧島市議会議場(2)



霧島市議会議場(3)



集合写真

2 鹿児島県南九州市 「観光振興について（歴史遺産を活用した観光振興と歴史と景観をいかしたまちづくり）」

（１）視察日時及び対応者

- ア 視察日時 令和５年11月１日（水） 10時50分～12時00分
- イ 対応者 南九州市議会 吉永副議長（挨拶）
南九州市議会事務局議事係 南部主任主事
南九州市商工観光課観光交流係 山崎係長



吉永副議長と南九州市職員の皆様



訪問の挨拶を行う田村委員長

（２）観光振興の経過

ア 昭和40年代前半に知覧武家屋敷庭園群が文献で紹介されたことがきっかけとなり、昭和48年には、地元のバス会社が鹿児島市からの定期観光コースに知覧武家屋敷庭園群を組み込み「薩摩の小京都、知覧」と言われるようになった。また、昭和50年には、知覧特攻遺品館が開館した。

イ 知覧の市街地は、昭和55年から道路や公園の整備を行い、歴史と景観を活かした潤いのある街並みを整備し、武家屋敷や平和をモチーフにした和風で落ち着いた佇まいの町づくりが進められた。

ウ 昭和62年には知覧特攻平和会館が新築され、より多くの資料展示や語り部による講話等が充実したが、鹿児島空港からの直行バスの廃止、新型コロナウイルスの影響もあり近年は観光客の減少傾向が続いている。南九州市には宿泊施設が少なく日帰りが主流のため、観光消費額と滞在時間の拡大も課題である。

(3) 概要

【知覧武家屋敷庭園群】

ア 武家屋敷のある麓地区は、昭和56年に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、7つの庭園は国の「名勝」に指定されている。その所有者等で「知覧武家屋敷庭園有限責任事業組合」を組織し、入園料の徴収やPR事業、生け垣の剪定及び病虫害対策を行っている。

イ 取組み内容

- ◆公衆無線LAN（Wi-Fi）整備・多言語音声ガイド導入
- ◆周辺駐車場の無料化
- ◆ちらん灯採路～南九州市あかりの道標～

【知覧特攻平和会館】

ア 第二次世界大戦末期に行われた特攻作戦にまつわる資料を展示し、平和の大切さや命の尊さを発信している。近年は、平和学習の場として、全国各地の学校が訪れている。

イ 取組み内容

- ◆慰霊顕彰の噴水設置
- ◆戦争遺跡の活用

【新たな観光地づくり】

ア 番所鼻自然公園は、伊能忠敬が「天下の絶景」と称賛し、開聞岳の美しい姿を望むことができる。平成22年度から鹿児島県の事業を活用し、駐車場や園路整備して新たな観光スポットとして整備した。

イ 付近の釜蓋神社は、ユニークな「釜蓋願掛け」が全国テレビで紹介され、多くの観光客が訪れるようになった。

ウ 市内には、まだ埋もれた観光資源があり、限られた予算の中で持続可能な観光地をどのように整備・維持していくのかが課題とされている。

【稼ぐ観光に向けた取り組み】

ア 南九州市は日帰り観光地であるため、宿泊以外の分野で観光消費額を向上させる取組みを進めている。

- ◆サイクルツーリズムの推進
- ◆自然を活かした「アドベンチャーパーク森のかわなべ」の整備
- ◆観光体験予約サイト「みな、たび」の運用
- ◆新ご当地グルメ「みなコレ名物丼」の開発



集中して説明を聞く委員



お礼の挨拶を行う藤田副委員長

（４）各委員の所感

- このまちづくりは、大変有意義な取組みであり、歴史遺産はその地域ならではの物語や文化を伝える重要な資源である。それを観光に結び付けることは、地域のアイデンティティを強化し、今回の私達滝川市議会議員を含め、訪れる人々にとって忘れがたい経験を提供することができると思った。
- 単に観光客を呼び込むだけでなく、地域住民の生活の質の向上や、地域の文化・歴史への誇りを持つことにも繋がり、地域全体の持続可能な発展に寄与すると感じた。
- 何が観光資源か、どうやって稼ぐかを明確にし、ぶれずに貫く姿勢の大切さを学んだ。
- 武家屋敷の庭園群は見られなかったものの、道路という道路が本当に綺麗で雑草１本も生えていないと思うくらい素敵な街並みであると感じた。
- 歴史的景観を保全するため30年にわたって75億円かけて整備してきたことにそのまちづくりに対する真摯な姿勢を感じた。まちづくりには、このような長期にわたっての継続と意気込みが必要であることを痛感させられた。
- 交通の不便さはあるが、知覧特攻平和会館や武家屋敷など観光の目玉があるの

で羨ましいと思った。また、体験型観光も実施しているので滝川市でも見習うべき点が多いと感じた。

- 知覧武家屋敷庭園群と知覧特攻平和会館を観光のメインとしてW i - F i の整備、多言語音声ガイドの導入、駐車場の無料化などの施策を講じており、魅力ある観光資源を有しているが、宿泊施設に乏しく交通のアクセスが悪いのが弱点であると感じた。(リムジンバスが必要)
- 観光協会に力を入れており、ふるさと納税を担当させるとともに、職員を充実(ふるさと納税6名(市職員2名含む。)、事務3名、案内3名、計12名)させており、将来的には市と観光協会のDMOも検討していて参考になった。
- 古くからの長い歴史と遺産的建造物に裏打ちされた事業で本市には参考にしにくいのが、道路、歩道、公園などの整備がこれほど充実した街並みは見たことがないほど素晴らしい。課題として、日帰り観光から滞在型観光への転換と全国的なP Rが不十分ではないかと感じた。



南九州市役所からの風景(1)



南九州市役所からの風景(2)

3 鹿児島県南九州市 「知覧特攻平和会館」

(1) 視察日時

- ア 視察日時 令和5年11月1日(水) 13時30分～15時30分
イ 対応者 知覧特攻平和会館 塗木館長



塗木館長の説明を聞く委員

(2) 目的

- ア 太平洋戦争末期、沖縄戦において人類史上類のない特攻作戦で亡くなられた陸軍特攻攻撃隊員の遺品や関係資料等を収集保存展示し、その記録を後世に残し、またその史実をとおして、「二度と悲惨な戦争を起こしてはならない」という平和のメッセージを発信し、平和の大切さ、命の尊さを語りつぎ、世界恒久の平和に寄与することを目的としている。

(3) 建設の経緯

- ア 日本経済も安定成長期に入った昭和40年代に、少飛会・特操会など特攻関係者から「特攻銅像の建立」と「遺品館」建設の声が続出し、全国の特攻関係者や一般有志の方々に募金を呼びかけて浄財による建設を計画した。

広く募金活動を展開したが、昭和48年に始まった第一次オイルショックに直面し計画が頓挫した。

イ 昭和49年に運動公園の休憩施設として過疎債を利用し、「特攻遺品館」を建設した。しだいに全国各地から訪れる人が多くなり、往時の痛ましくも悲しい事実には大きな反響が寄せられ、展示資料も多くなり手狭になってきた。

ウ 昭和60～61年度にかけ、特別対策事業で場所を移して建設し、名称も「知覧特攻平和会館」と改称し、昭和61年12月に仮開館し、昭和62年2月に落成。



知覧特攻平和会館

(4) 事業の内容

ア 資料の収集・保存活動

遺族が世代交代しつつあり、資料の散逸・滅失が予想されるため資料の収集と保存展示に努め、特攻の史実を後世に正しく伝えるようにしている。

イ 教育・普及活動

館内案内人（語り部）が、教育旅行・修学旅行・一般団体等に、特攻の事実・戦争の悲惨さ・平和のありがたさ・命の尊さ・家族の絆等について、説明・案内をしている。

ウ 広報活動

鹿児島中央駅等に電照看板広告をだしており、インターネットのポータルサイ

ト、雑誌や観光パンフレットに広告を掲載し、旅行会社、バス会社や鉄道会社、ホテル、レンタカー店等を訪問し、知覧特攻平和会館に来館してもらうことで、命の尊さ、平和の大切さを伝えるようにしている。

エ 平和事業

「平和へのメッセージ from 知覧スピーチコンテスト」を毎年8月15日に開催している。このコンテストは平成元年に知覧特攻平和会館に届いた女子高校生からの手紙がきっかけとなり、平成2年から「あした いのち かがやけ」をテーマに始まった。

(5) 収蔵資料等の状況

ア 収蔵資料は令和5年3月末時点で、特攻隊員の遺品が8,935点、戦時中の資料が4,869点、書籍・文献（戦後発行）が1,947点、参考資料が514点、計16,265点となっている。

(6) 展示・解説等

ア 平和学習は、館内案内人（語り部）による講話及び特攻隊員たちの遺書・手紙などの閲覧を通じ、平和の大切さ・ありがたさ、命の尊さを学習することができる。館内案内人（語り部）が特攻の歴史背景と特攻隊員の遺書・手紙等の特色について約30分間解説をしている。

イ 遺品室における特攻隊員の遺影、遺書、手紙などの閲覧や当時使用された戦闘機等の実物資料を見学できる。

ウ 隣接して建てられている三角兵舎（復元）の見学や知覧特攻平和観音堂の参拝も自由にできる。

エ 本物（真実）を展示し当時のありのままを来館者に伝えている。

平和学習の資料館としては、当時の事実や真情を後世に正しく伝え、考えさせる展示でなければならない、戦争については、それぞれの感じ方や意見があるのでありのままを展示し、それぞれの人が自分の感じ方で、戦争、平和、命、家族の絆等、何か一つでも感じてほしいと考えている。

(7) 実際に体験したもの

ア 若き特攻隊員の英霊コーナー

1036柱の隊員の遺影を出撃戦死した月日順に掲示

イ 遺書・遺品などの展示ケース

写真や遺書、遺品など約6,000点を展示

ウ 語り部の講話

語り部による特攻についての講話

エ タッチパネル

遺書や手紙を楷書化し、理解が難しいと思われる用語の解説も表示

オ 戦史資料室

西南の役から大東亜戦争まで、各種戦史資料を展示

カ 企画展示室、震洋艇展示室

様々な企画展示、海軍の水上特攻艇「震洋」を展示

キ 三角兵舎

特攻隊員が出撃前を仲間と過ごした場所を復元（屋外展示）

ク 知覧平和観音

旧知覧飛行場跡に建立した観音堂に観音像を安置（屋外展示）

(8) 各委員の所感

- 知覧特攻記念館は戦争遺跡としての価値を持つだけでなく、平和教育の場としても重要な役割を果たしていると考えます。
- 訪問者は展示を通じて、歴史的事実を学び、個人の犠牲と国家の決定がどのように絡み合っていたかを理解することができ、未来に向けて平和をどのように築いていくべきか、個人として、そして社会として何ができるのかを考えるきっかけになった。

- 資料館を建設して終わりではなく、展示の充実・伝承へと発展したので、今日に至っており、施設の建設にあたっては、その後の「発展」性を考えることが重要と感じた。
- 子を持つ親として生命の尊さ、大切さを今一度考えさせてもらえるとても貴重な場所となった。語り部のお話では、涙があふれ、早く息子たちに会いたいと思った。
- 観光資源としては、周辺に売店、飲食店が所在し最高の施設だと感じた。
- 戦争という過去の過ちや悲惨さを遺品や遺言を通じて目の当たりにして、二度と戦争を起こしてはならないという思いを再認識した。
- 日本の戦争は歴史の教科書等で学んだことしかなかったが、知覧特攻平和会館の資料や映像、そして語り部の話を聞き、改めて戦争の悲惨さを学んだ。戦争は人の命だけではなく、人の心も奪うものであり、我々は絶対に戦争を起こしてはならないと強く感じた。



一式戦闘機「隼」



掲示板



特攻勇士の像と「零戦」



三角兵舎

4 鹿児島県鹿児島市

「鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業について」

「歩いて楽しめるまちづくり推進事業について」

「鹿児島中央駅東口駅前広場、西口駅前広場について」

(1) 視察日時

ア 視察日時 令和5年10月31日(火) 16時15分～17時30分

令和5年11月1日(水) 8時00分～9時15分

イ 鹿児島県鹿児島市は、魅力あふれるまちづくりを進めていることから、是非とも担当者の説明を聞きたいと思っていたが、議会(委員会)関係が予定されていたこともあり、残念ながら希望は叶わなかった。しかし、鹿児島市内に宿泊することから鹿児島市内のまちを歩くことで魅力あふれるまちづくりの実感したいと考え、委員各自で現地視察を行い、「鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業について」、「歩いて楽しめるまちづくり推進事業について」、「鹿児島中央駅東口駅前広場、西口駅前広場について」を学ぶこととした。



鹿児島駅



鹿児島中央駅東口

(2) 鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業

ア 目的は、鹿児島駅周辺地区において、交通結節機能の強化や魅力ある都市拠点の形成を図るものである。

イ 事業概要は、基盤整備としては、鹿児島駅前広場の整備、鹿児島駅自由通路の新設、ＪＲ鹿児島駅駅舎の整備（自由通路との一体化）、上本町磯線の拡幅改良（歩道拡幅・右折レーン新設・交通広場新設）、市電鹿児島駅前停留場とＪＲ鹿児島駅駅舎の連携強化、周辺の土地利用動向を踏まえたウォーターフロントへの回遊性向上の検討などであり、地元取組支援としては、住民との協働で進める駅周辺等の一体的なまちづくりとなっている。

ウ 特色としては、ＪＲ鹿児島駅駅舎部分と自由通路部分(鹿児島市道)を一体的に整備し、駅舎は大正時代の駅舎をモチーフとした歴史を感じさせるデザインとして、駅舎と一体となった自由通路部分の天井は、半円形状とし薩摩切子をイメージしたデザインとしている。

鹿児島駅前広場から上本町磯線へ繋がる鉄道敷上空を跨ぐ自由通路については、半開放型とし、通気性、採光性を重視している。

鹿児島駅周辺地区（第２期）都市再生整備計画を作成し、国の交付金等を活用して事業を実施した。



鹿児島駅前広場（ロータリー）



交通広場

(3) 歩いて楽しめるまちづくり推進事業

ア 目的は、鹿児島中央駅から天文館、本港区、さらに鹿児島駅までのエリアにおいて、来街者のさまざまな消費行動やまちの魅力の気付きにつなげ、にぎわいとゆとりある都市空間の創出を図るため、歩いて楽しめるまちづくりを推進することである。

イ 事業概要は、まちなか建替等促進事業、加治屋町1番街区市街地再開発事業、マイアミ通り歩いて楽しい空間づくり社会実験事業、まち案内活動、照国表参道歩行者天国実施支援、天文館通電停前アーケード整備支援等がある。

ウ 特色は、多様な団体との官民連携によるまちづくりの推進である。

(4) 鹿児島中央駅東口駅前広場、西口駅前広場

ア 地元では「中央駅」と呼ばれ、鹿児島県における都市間移動の拠点駅であり、新幹線は新大阪駅からの終着駅、福岡・熊本両都市圏、本州方面とを結ぶ新幹線の発着駅である。特急列車や観光列車など在来線においても多数の列車が発発・終着とするターミナル駅である。

イ 鉄道以外では鹿児島港とのバス路線や鹿児島空港行きのリムジンバスの発着地であり、鹿児島市のみならず鹿児島県全域とのアクセスの拠点である。駅前の鹿児島中央ターミナルビル1階にも南国交通バスターミナルが設置され、九州各都市や鹿児島空港に向かう高速バスが発着する。

ウ 鹿児島中央駅から天文館、本港区、鹿児島駅までのエリアにおいて、来街者のさまざまな消費行動やまちの魅力の気付きにつなげ、にぎわいとゆとりある都市空間の創出を図るため、歩いて楽しめるまちづくりを推進することである。



鹿児島中央駅周辺東口(1)



鹿児島中央駅東口周辺(2)

(5) 各委員の所感

ア 鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業

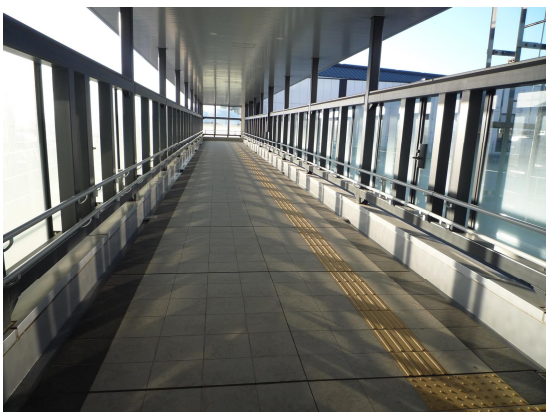
- 市民、特に地域住民との意見を参考に協働で進めることが重要である。いずれにしても国の交付金メニューを有効利用することが必要と思える。
- 交通の利便性を高めるだけでなく、地域の活性化にも寄与する大規模なプロジェクトであり、このような開発が、単に商業施設を増やすだけでなく、鹿児島の文化や伝統を反映し、教育や芸術を支える施設を組み込むことで、より豊かな地域コミュニティの発展に寄与すると感じた。
- 人口が約58万9千人の鹿児島県最大の自治体だからこそ、国や県の支援を受け、総事業費約36億9千万円かけたまちづくりできたものと思料する。
- 自由通路においては、本市における最大の課題である駅前開発の参考になるものとする。



鹿児島駅前広場（ロータリー）



駐輪場



鹿児島駅自由通路(1)



鹿児島駅自由通路(2)

イ 歩いて楽しめるまちづくり推進事業

- 滝川市はアーケードで失敗している。鹿児島は雪が降らないから必要性は高いが、官民連携がどれくらい協調できるかが課題と思う。
- 徒歩での移動を快適かつ楽しくすることで、市民や観光客により良い街の体験を提供しようとするものであり、街歩きを通じて地域の歴史や文化を学べるような案内板やアートインスタレーションを設けることで、教育的な価値も提供することができると感じた。
- 市民が日常的に歩くことを楽しむ文化を醸成することは、健康への意識向上にも寄与する。歩くことが日常に組み込まれることで、運動不足の解消やストレスの減少など、市民の生活の質の向上につながると感じた。
- 明治維新やその後に所縁のある史跡が残り詳しい説明文があり散策を楽しめる工夫を感じた。
- 途中で休める店やベンチがあり、ありがたいと感じた。
- 雑貨屋から高級なお肉屋、近くにはキレイな川と。1日歩いても飽きが来ない仕掛けが随所に見られた。
- 建築物建替えや地域開発に補助金制度を導入するとともに、特定地域における社会実験の実施及び国体に合わせた高校生によるまち案内など、行政と各種団体と密接に連携した魅力あるまちづくりを推進しており、本市におけるまちづくりの資を得ることができたものと思料する。

ウ 鹿児島中央駅東口駅前広場、西口駅前広場

- 駅周辺の利便性や視覚的魅力を高めるために整備された空間であり、東口・西口ともそれぞれ異なる機能や特色を持っていると感じた。
- 東口駅前広場は、多くの人が集まるエリアであり、通行人の流れをスムーズにし、近代的な都市の顔としての機能を果たしており、広場が清潔で開放的なデザインであるため、人々は集いやすく、地域のコミュニティ形成にも貢献しているように感じた。



鹿児島中央駅東口駅前広場(1)



鹿児島中央駅東口駅前広場(2)

- 西口は、自然の景観と調和した設計がされていると感じ、旅行者にとって快適な第一印象を与え、地元の人々にも憩いの場を提供できると感じた。
- 駅前広場が、ただの通過点ではなく、地域の魅力が感じられる居心地の良い空間であるならば、鹿児島市にとって大きな資産であると感じた。
- 西口は歩道も広場も歩行者が利用しやすいスペースが確保され、車ではなく人が主人公というつくりで、人が集まり賑わいをつくりやすいと感じた。

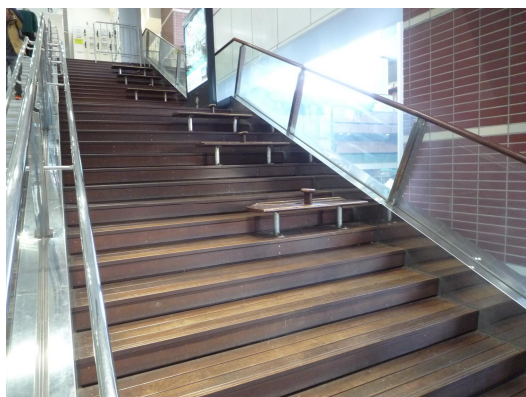


鹿児島中央駅西口駅前広場(1)



鹿児島中央駅西口駅前広場(2)

- 夕刻時には、サラリーマンや高校生、近くでお祭りでもあるのかなあ??と思うくらい様々な人たちが行きかっているのが印象的であった。
- 東口駅前広場は新潟県長岡市に所在するアオーレ長岡と同様に多目的イベントスペースが確保されているとともに、商業施設や飲食店小路などが多数集中しており、人が集まり賑わいが創出され活気を感じた。一方、西口駅前広場については、若干の休憩スペースはあるもののビジネス街の様相をなして東口と比較して寂しさを感じた。
- 東口、西口のいずれも路線バス、タクシーの乗り場を有しており J R とのアクセスは良好であり、開発にあたっての青写真を描く段階から入念に検討協議されたことが窺えた。



鹿児島中央駅東口階段に設置されているベンチ



鹿児島中央駅東口駅前広場(3)



鹿児島中央駅西口駅前広場(3)



鹿児島中央駅西口駅前広場(4)